

2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年2月5日

上場会社名 株式会社ゼンショーホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 7550 URL http://www.zensho.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長兼CEO (氏名) 小川 賢太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経理本部長 (氏名) 丹羽 清彦 (TEL) 03 (6833) 1600
 四半期報告書提出予定日 2019年2月5日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日~2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	454,845	4.4	14,660	7.2	13,962	0.7	6,394	△6.9
2018年3月期第3四半期	435,753	7.3	13,672	△7.2	13,861	△2.3	6,869	△9.2

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 6,420百万円(△3.0%) 2018年3月期第3四半期 6,621百万円(△39.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	43.74	—
2018年3月期第3四半期	46.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第3四半期	346,789	85,763	20.5	485.62
2018年3月期	295,316	82,204	22.9	461.76

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 70,983百万円 2018年3月期 67,495百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2019年3月期	—	9.00	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	623,709	7.7	20,391	15.8	19,522	10.6	8,636	7.9	59.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2019年3月期3Q	149,640,445株	2018年3月期	149,640,445株
2019年3月期3Q	3,469,646株	2018年3月期	3,469,463株
2019年3月期3Q	146,170,918株	2018年3月期3Q	148,131,468株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。上記予想に関する事項は添付資料の3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年12月31日)におけるわが国経済は、自然災害や世界的に広がりを見せる貿易摩擦の影響等により不透明な状況が続いたものの、企業収益や雇用環境の改善などを背景として緩やかな景気回復基調で推移いたしました。

外食産業におきましては、個人消費に力強さが見られないことや、食材価格の高騰、人件費の上昇により、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、「すき家」をはじめとする牛丼カテゴリーの既存店売上高前年比は103.4%、「ココス」、「ジョリーパスタ」をはじめとするレストランカテゴリーの既存店売上高前年比は100.2%、「はま寿司」をはじめとするファストフードカテゴリーの既存店売上高前年比は102.0%となりました。

当第3四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、181店舗出店、60店舗退店、及びAdvanced Fresh Concepts Corp.を子会社化した結果、9,329店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高4,548億45百万円(前年同期比4.4%増)、営業利益146億60百万円(同7.2%増)、経常利益139億62百万円(同0.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益63億94百万円(同6.9%減)となりました。

セグメント別の概況につきましては、以下の通りであります。

① 外食事業

外食事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は3,914億79百万円(前年同期比5.2%増)、営業利益は144億35百万円(同10.4%増)となりました。

外食事業における主要カテゴリーの状況は、以下の通りであります。

(牛丼カテゴリー)

牛丼カテゴリーの当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、102店舗出店、28店舗退店した結果、2,872店舗となりました。内訳は、「すき家」1,933店舗、「なか卯」457店舗(F C 11店舗含む)等であります。

株式会社すき家本部が経営する牛丼チェーンの「すき家」につきましては、お客様の多様なニーズにお応えできるよう、「すき家de健康」をテーマとして、「シーザーレタス牛丼」(並盛税込500円)、「4種のチーズドリ牛」(並盛税込480円)、「しび辛もやし牛丼」(並盛税込500円)、「お好み牛玉丼」(並盛税込500円)、「牛すき鍋定食」(並盛税込780円)、「白髪ねぎ牛丼」(並盛税込500円)等を導入し、商品力の強化に取り組んでまいりました。

今後ともお客様に愛される店舗づくりを目指すとともに、安全でおいしい商品を安心して召し上がっていただけるよう、さらなる品質管理の徹底と店舗水準の向上に努めてまいります。

株式会社なか卯が経営する井ぶり・京風うどんの「なか卯」につきましては、新商品・季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化と店舗販促の実施により、業績の向上に努めてまいりました。

以上の結果、牛丼カテゴリーの当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,617億96百万円(前年同期比5.4%増)となりました。

(レストランカテゴリー)

レストランカテゴリーの当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、16店舗出店、11店舗退店した結果、1,375店舗(F C 79店舗含む)となりました。

株式会社ココスジャパンが経営するスタンダードレストランの「ココス」につきましては、メニューのラインアップの強化、ごちそう感のあるフェアメニューの投入及び店舗のサービス水準の向上に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ビッグボーイジャパンが経営するハンバーグ&グリルレストランの「ビッグボーイ」等につきましては、メイン商品のブラッシュアップを図るとともに、サラダバー・スープバーの充実やフェアメニューの投入を行うなど、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ジョリーパスタが経営するパスタ専門店の「ジョリーパスタ」につきましては、「パスタならジョリーパスタ」をテーマに、パスタ専門店の魅力をよりお客様へアピールできるよう、メニューのラインアップの拡充や旬の食材を活かした新商品の投入を行い、一層のおいしさを追求してまいりました。

株式会社華屋与兵衛が経営する和食レストランの「華屋与兵衛」につきましては、お客様の満足度の向上を図るため、旬の食材を活かした商品の開発及び店舗従業員の教育強化によるサービス水準の向上、労働生産性の改善等に努めてまいりました。

以上の結果、レストランカテゴリーの当第3四半期連結累計期間の売上高は、966億6百万円(前年同期比0.8%増)となりました。

(ファストフードカテゴリー)

ファストフードカテゴリーの当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、29店舗出店、8店舗退店した結果、774店舗となりました。

株式会社はま寿司が経営する回転寿司の「はま寿司」につきましては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努めてまいりました。

以上の結果、ファストフードカテゴリーの当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,051億84百万円(前年同期比6.2%増)となりました。

(その他カテゴリー)

その他カテゴリーの当第3四半期連結累計期間の売上高は、278億91百万円(前年同期比18.1%増)となりました。

当カテゴリーの主な内訳は、冷凍ピッツァ等販売の株式会社トロナジャパン、グループの物流機能を担う株式会社グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する株式会社グローバルテーブルサプライ及びAdvanced Fresh Concepts Corp.等であります。なお、Advanced Fresh Concepts Corp.につきましては、米国、カナダ、オーストラリアで寿司のテイクアウト店を展開しており、2018年11月16日付で株式取得を行い子会社化いたしております。

② 小売事業

小売事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、633億65百万円(前年同期比0.6%減)、営業利益は2億24百万円(同62.1%減)となりました。

当事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する株式会社マルヤ、株式会社マルエイ、株式会社尾張屋、株式会社フレッシュコーポレーション及び青果販売等の株式会社ユナイテッドベジーズ等であります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産は3,467億89百万円となり、前連結会計年度末から514億73百万円増加いたしました。これは主に、Advanced Fresh Concepts Corp.の株式取得に伴う無形固定資産の増加、現金及び預金の増加等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は2,610億26百万円となり、前連結会計年度末から479億13百万円増加いたしました。これは主に、劣後特約付ローン及び無担保社債発行に伴う有利子負債の増加等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は857億63百万円となり、前連結会計年度末から35億59百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の業績予想につきましては、2018年5月10日発表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,142	34,555
受取手形及び売掛金	8,142	14,546
商品及び製品	15,965	20,974
仕掛品	726	680
原材料及び貯蔵品	4,872	7,364
その他	15,916	17,075
貸倒引当金	△11	△96
流動資産合計	71,754	95,100
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	188,654	196,043
減価償却累計額	△107,400	△112,204
建物及び構築物（純額）	81,253	83,839
機械装置及び運搬具	11,588	12,857
減価償却累計額	△7,151	△7,775
機械装置及び運搬具（純額）	4,437	5,081
その他	98,746	106,294
減価償却累計額	△49,151	△52,350
その他（純額）	49,594	53,943
有形固定資産合計	135,285	142,864
無形固定資産		
のれん	17,833	38,525
その他	3,343	3,778
無形固定資産合計	21,176	42,303
投資その他の資産		
投資有価証券	1,328	3,282
差入保証金	33,506	33,288
その他	32,189	29,840
貸倒引当金	△14	△14
投資その他の資産合計	67,009	66,396
固定資産合計	223,471	251,565
繰延資産	89	124
資産合計	295,316	346,789

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,624	25,368
短期借入金	783	918
1年内償還予定の社債	1,780	1,600
1年内返済予定の長期借入金	35,509	29,401
未払法人税等	2,113	2,212
引当金	2,131	1,235
その他	33,127	34,307
流動負債合計	95,070	95,045
固定負債		
社債	13,800	28,000
長期借入金	85,227	116,436
退職給付に係る負債	578	587
資産除去債務	2,989	3,068
その他	15,446	17,888
固定負債合計	118,041	165,980
負債合計	213,112	261,026
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,470	23,470
資本剰余金	24,261	24,261
利益剰余金	27,152	30,902
自己株式	△6,021	△6,021
株主資本合計	68,863	72,612
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△29	△69
繰延ヘッジ損益	△605	△43
退職給付に係る調整累計額	△24	△12
為替換算調整勘定	△707	△1,503
その他の包括利益累計額合計	△1,367	△1,628
非支配株主持分	14,708	14,779
純資産合計	82,204	85,763
負債純資産合計	295,316	346,789

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	435,753	454,845
売上原価	189,487	195,881
売上総利益	246,265	258,963
販売費及び一般管理費	232,593	244,303
営業利益	13,672	14,660
営業外収益		
受取利息	321	343
受取配当金	5	7
受取賃貸料	148	104
為替差益	434	—
持分法による投資利益	—	5
その他	473	559
営業外収益合計	1,383	1,019
営業外費用		
支払利息	621	826
賃貸費用	94	55
為替差損	—	155
その他	478	680
営業外費用合計	1,194	1,717
経常利益	13,861	13,962
特別利益		
固定資産売却益	132	105
投資有価証券売却益	94	38
受取補償金	—	108
収用補償金	259	19
その他	37	64
特別利益合計	524	336
特別損失		
固定資産売却損	76	0
固定資産除却損	1,022	1,097
その他	702	492
特別損失合計	1,800	1,590
税金等調整前四半期純利益	12,585	12,707
法人税、住民税及び事業税	3,159	3,718
法人税等調整額	2,221	2,299
法人税等合計	5,380	6,018
四半期純利益	7,205	6,689
非支配株主に帰属する四半期純利益	336	295
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,869	6,394

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	7,205	6,689
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△570	△43
繰延ヘッジ損益	△186	561
退職給付に係る調整額	4	12
為替換算調整勘定	168	△799
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△0
その他の包括利益合計	△584	△269
四半期包括利益	6,621	6,420
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,283	6,133
非支配株主に係る四半期包括利益	337	286

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	371,996	63,756	435,753	—	435,753
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,558	21	1,579	△1,579	—
計	373,554	63,778	437,332	△1,579	435,753
セグメント利益	13,078	592	13,671	0	13,672

- (注) 1. セグメント利益の調整額0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	391,479	63,365	454,845	—	454,845
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,444	34	1,478	△1,478	—
計	392,924	63,400	456,324	△1,478	454,845
セグメント利益	14,435	224	14,659	0	14,660

- (注) 1. セグメント利益の調整額0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「外食事業」セグメントにおいて、Advanced Fresh Concepts Corp. の株式の取得に伴い、当第3四半期連結会計期間より同社を連結範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は21,698百万円であります。

また、上記の金額は、企業結合日以後、決算日までの期間が短く、企業結合日時点の識別可能資産及び負債の特定及び時価の見積りが未了であるため、取得原価の配分が完了しておらず、暫定的に算定された金額であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。